

信州上田 川西紀行

川西まちづくり委員会事務局
〒386-1106 上田市小泉863-1
川西地域自治センター内
電話080-5827-9724

E-mail
kawanishi.machizukuri@gmail.com

第5号

令和8年2月発行

おかじょうし そうあんじ
～岡城址・宗安寺～



宗安寺 山門 絵・高沢 恵

岡三山の麓 口伝残す里へ 岡城址と宗安寺を訪ねて

〔岡三山〕 秋葉山・日陰山・大久保山

川西まちづくり委員会子育て教育文化部会は、
地域の方のお話を聞く地域文化財学習会とフィールドワークを行いました

はじめに

子育て教育文化部会
部会長 高 沢 恵
(浦野南団地)

今年度、我が子育て教育文化部会では、岡地区の歴史について学び、その史跡をめぐってみようということになりました。去る十月十三日、地域の歴史に詳しい瀬志本好孝さんと古平実さんにレクチャーを受けながらフィールドワークを行いました。

説明を受けて景色を見ながら歩き、理解できた大きなことは、岡城と言われた場所が、東西四百六十メートル、南北三百六十五メートルもあったこと、現在残っている小高い丘は、実は本丸ではなくて、本丸が岡団地となつてしまつていたことです。

外堀跡や内堀跡の残るわずかな溝をたどることで、武田勢が川中島に進出するための重要な拠点であったことが偲ばれました。

その後宗安寺を訪ね、三



岡城址を背景に全員集合
瀬志本好孝さん（後列左から三番目）と古平実さん（後列左から二番目）と共に

文中の表記は引用資料、地域での呼称を尊重しています。

- 名称 岡城址・岡城跡・岡城址
- 規模 南北の長さ

上田市教育委員会市指定史跡岡城跡案内看板
「城の規模はく南北三百六十五メートル」
上田市誌
「城跡はく南北およそ二百六十メートル」

つの特徴的な門をくぐり本堂前に上がりました。上田藩が庇護した宗安寺、その裏手にある藩主松平家の姫君りきの眠る墓地には行きませんでした。静かに想いを巡らせながら見学することができました。

岡の歴史について教えてくださった瀬志本好孝様、古平実様にあらためて感謝申し上げます。

- P1 部会長メッセージ
- P2 岡城址
- P6 宗安寺
- P7 フィールドワークを終えて委員の想い

編集・構成：久松久美子

マップ「岡を歩こう」
イラスト ミヤザワツトム

川西まちづくり
委員会
ホームページ



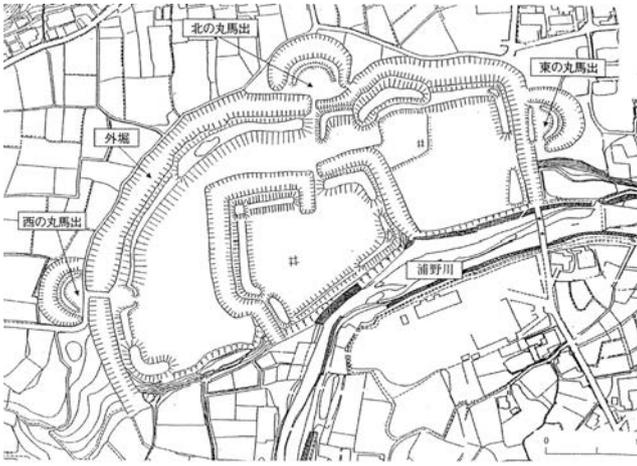
岡城址

上田市誌より

「武田氏の 手になる岡城跡」

『千曲之真砂』に岡村城と記される岡城跡は川西地区岡集落南側の、浦野川の段丘を利用して築かれた平城です。現在城跡内は公営の住宅団地となっています。

城跡の南側は断崖となっており、主郭は東・北・西の三方を内堀が取り巻いていたと



岡城推定縄張り図(尾見智志氏作成)

堀・土塁などの設計)の城として知られていますが、三箇所とも埋め立てられ、東側と北側の三日月堀が、僅かに確認できる状態です。築城の年代ははっきりしません。天文二十二年(一五五三)八月、甲州(山梨県)の武田信玄が塩田城を攻め落とし、たあと、砂原峠から塩田を通り、室賀峠

考えられますが、現在は西側から北側にかけて内堀跡を残しています。二の郭は主郭を囲むように構築されていて、東・北・西の三方を外堀で固めていたが、大部分が埋め立てられて、現在は北側の堀のうち、東寄りのおよそ一五〇mが水田となっています。

城跡は東西およそ四六〇m、南北およそ二六〇mの楕円形で、外堀には東・北・西の三方に虎口が設けられ、丸馬出しと三日月堀が造られ、甲州兵学(武田流)による縄張り(郭・堀・土塁などの設計)の城として知られていますが、三箇所とも埋め立てられ、東側と北側の三日月堀が、僅かに確認できる状態です。

越えに北信濃方面へ進攻するため、小県における武田氏の重要拠点として、かつて岡村氏の館跡だったところに構築したものと、考えられています。岡村氏は『御符礼之古書』の長禄四年(一四六〇)、文明十三年(一四八一)に、岡村時宜・岡村直則らが、それぞれ祢津氏の代官であったことを記しています。

信玄はこのあと上杉謙信と、川中島で幾度か合戦をくりかえしている。岡城の築城は天文二十二年塩田城落城後間もなく着手されたものと推定されます。なお、永禄九年の

「小山田信茂書状」に「昨日自海津岡村へ御歸にて候」とあることから、この時期も武田氏にとって岡城は重要拠点であったことがわかります。いわば岡城は、真田昌幸によって、天正十一年(一五八三)に築かれた上田城より、およそ三〇年ほど早く築かれた平城といふこととなります。



大正9年 岡青年会による井戸発掘調査

この岡城について昭和五十二年六月、上田市文化財調査委員会が、岡城跡の調査結果をまとめた報告書の中に、次のようなことが記されています。◆近世の築城に移る前の戦国時代における平城としては、当地方における稀な大規模の築城である。◆この城は武田流の典型的な縄張りを残す平城であって、



明治の頃、岡城址の南西角にあった冠者社の合祀以前に撮影された写真。

説明文 「冠者森と呼ばれ、樺の大木森を成し、西側の老松の枝外堀を渡りて対岸に届きしと云ふ」

その後の大名などに原型を変えられていない城跡である。

◆築城年代が、山城としての塩田城、平城としての上田城の中間に位置していて、当地方の城郭の変遷を知るうえで学術上重要な城跡である。

このように貴重な城跡の原型が、やむを得ない理由とはいえ、宅地造成や農地の埋め立てのため、各所で失われたのは残念なことです。

「岡村城の由来」碑について

川西郷土研究会
「川西の石造物」別冊
川西地区碑文集より



岡村城由来 碑

が勤めたということ
で、この少し前から岡
村を領所にしていた
ものと考えられます。
この後、祢津氏代官と

岡村には、昔「岡村権之左衛
門」という武將がいて活躍した
という伝説が伝えられていた
ようです。この碑にも弘仁二年
(八一二)に岡村に築城したと
記されています。

しかし、岡村氏が歴史の文書
に初めて見られるのは「諏訪
上社・御符礼之古書」の長祿四
年(一四六〇)五月会の際、「祢
津宮内小弼代官岡村四郎兵衛」

して諏訪社御頭を勤めますが、
文明十九年(一四八七)を最後
に文書に現れなくなります。

岡城跡は「市指定史跡岡城
趾」に記されているように、天
文二十二年(一五五三)小泉は
武田氏により席捲され、浦野・
室賀・小泉氏など一様にその属
臣となりました。それから間も
なくして武田氏による「三日
月濠」のある縄張りにより築城

されたもの
と思われま
す。

築城当時
の姿をど
める城跡は
少なくなる
ばかりです。
岡城跡を
大切にしま
しょう。

岡を治めた領主

岡村権之左衛門平清氏を敬う
村人の大きな行動

〜明治時代に本当にあった話〜
舞田金王五輪塔移転事件

仁古田から権之峠を越えた塩
田の舞田地区に金王五輪塔があ
ります。県下で最大の高さ二一

二センチという雄大な塔で、鎌倉
時代の作とされ県宝に指定され
ています。

この金王五輪塔が、明治六年
(一八七三)、岡村(今の岡区)の
青年たちの手によつて、岡村へ移
し運ばれるという大事件が起き
ました。岡区に残る記録によつて
そのあらすじを追ってみましょう。

発端

五月二十六日夜、岡村の若者
たちが総出で、五輪塔を分解
権之峠をかついで岡村まで運び
去りました。しかし、空・風輪は
巨大な石をつなげて造つてあるの
で重かつたため、その夜は浦野川
べりまでしか運べず、それからこ

とが露見して大騒ぎとなりまし
た。

翌二十七日、舞田村から当然
抗議がくるものと察知した岡村
では、先手を打つて舞田村へ書面
で次のようなことを書き送りま
した。

舞田村への書状

舞田権之峠の山林中にあ
る五輪塔は、古くから岡村の
領主、岡村権之左衛門平清
氏公のものと伝えてきた。し
かも、この五輪塔を拜むと難
病や流行病が治る、利益が
あるとされ、近村は申すに及
ばず遠くは川東の人たちにも
信心され、多くの人々が参詣
に訪れるようになった。若者
たちはこのように大事な五輪
塔の主が、われらの遠いご領
主様清氏公でもあることゆえ、
一刻も早く岡村の御城の内へ
お移し申したく、御村へは断
りなく夜中にお移し申し上
げたのである。

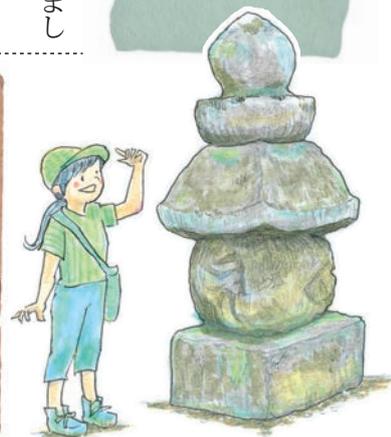
舞田村からの書状

本村でも本日の朝、五輪
塔がなくなつてを知り、
方々探したずねたところ、何者
かが岡村に移し運んだことがわ
かった。岡村ではこの五輪塔を
岡村権之左衛門の石塔だと
言っているそうだが、そうではな
く、舞田村では金王丸の五輪
塔と呼んでいるものである。

(6頁へつづく)

「岡のあゆみ」編纂紹介

現在、岡地区では
「岡のあゆみ」の編纂を行っています。



金王五輪塔

長廣山 宗安寺

京都総本山 知恩院御末寺
長廣山 光明院 宗安寺
本尊 阿弥陀如来
脇立 観音菩薩 勢至菩薩

宗安寺の歴史

平安時代寛仁年間(1001
7~1021)、岡三山の日陰
山のふもとに、二代目の僧が慶
心作の阿弥陀如来像を祀り、
婦命山正善寺と称したことが
起りとしてされています。



黒門



本堂

室町時代後期の天文元年

(1532)、領主であった藤
木刑部長廣の菩提を弔うため、
長廣山光明院遍照寺と改称し

て藤ノ木に興隆されました。
しかし、建物は天文十六年
(1550)上田原の合戦
で焼失してしまいました。

時代が戦国から江戸へ
移る頃、慶長十年(160
5)岡を治めていた真田家
重臣の日置五右衛門が寺
の焼失を嘆き、寺号を宗安
寺と改め現在の地に再興
しました。元禄十年(16
98)建物は火破して、現
在の建物は宝暦三年(1
754)に再建されたもの
です。

掛け合いと結論

(3頁より)

このようなやり取りがあつて以
後、五輪塔は自分たちの物だと
する掛け合い(談判・交渉・論争)
が続きます。しかし、舞田側にあ
る法樹院(現存)という寺の寺伝
に、この墓塔は文治二年(一一八
六)この地に金王庵を創つた、鎌
倉時代の武将(金王丸土佐坊昌
俊と推定)のものであるとあり、
これが根拠となつて終止符を打つ
こととなります。

岡村から舞田村への示談書

岡村では御領主様の石塔
と思つてこちらへお移しましたが、
金王丸の五輪塔であることが
はつきりわかつたので、一週間の
通し開帳(村人に五輪塔
を拜んでもらう)を行ない、
供養をした上で必ずそちらに
お返しする。今後このような
心得ちがいを起こさないこと
を条件として、示談にいたつた
ことはありがたいことである。
これから、こんどのを機会
に岡村と舞田村は、末永く
睦まじい付き合いができるよ
うにしたいものである。このこ
とは両村民にもしっかり伝え
るようにしよう。

明治六年六月三日

その後

このように両村はめでたく和
解し、今後の友好を約束しあつた
のですが、事実はこの文面によ
うにはいかず、太平洋戦後にいたる
まで村付き合いはもちろん、婚姻
関係も一切なかつたといひます。
なぜだつたのでしょうか。

追記

この金王五輪塔移転事件は、
その時の思いつきや偶発的なもの
ではなく、計画的であつたように
も思えます。岡区の記録による
と、この事件は岡城址公園に多
くの人々の寄進や土地の提供を
受けて、建設中の清氏社の本殿・
拜殿が完成し(その後移転)、清
氏の一代記を記した「瓢箪軍
記」にちなんで瓢箪を浮き彫り
にしたりつばな手洗石が造られ
た時期(その後出浦滝神社へ移
転)とほとんど合致します。これ
らのことから岡村権之左衛門平
清氏の顕彰事業に、五輪塔を運
んできて、さらに花を添えようと
考えたのかもしれない。

こうなると、単なる移転事件
ではなく、当時の人たちの郷土の
歴史への想いや、「おらが殿様」に
対する愛着が深く伝わってくる
ような話でもあります。

100年間の和解

昭和五十一年四月、舞田地
区の五輪塔前に両区の有志が
集まり、百年にわたる誤解を
解こうということで仲直りの
供養を行ったことが、NHK
の「朝のロータリー」に取材さ
れ放送されました。番組のタ
イトルは「百年目の和解」と
なっていました。和解は明
治六年にできており、「誤解
を改めることにしよう」と申
し合わせていたということだ
す。



昭和51年の供養の様子

川西郷土研究会
「川西の石造物」より



駒返しの門

歴史を伝える 三つの門

「黒門」「涅槃門」とも呼ばれる。

「駒返しの門」築地塀がかぎの手に二つ建っている。馬上の



長廣山門

人は馬から下りなければならなかった。

「山門」「長廣山門」と呼ばれる。屋根の妻が正面を向いており大変珍しい。

上田城主との関わり

宗安寺は上田城主と関わりがありました。六文銭が描かれた駒返しの門の軒瓦や、松平家二代目藩主忠愛の娘「りき姫」が愛用した漆塗りの膳椀(寺宝)、上田城を望める高台にある「りき姫」と弟「熊之丞」の墓所などから、その深い関係がうかがえます。



御姫様の墓

上田藩主松平忠愛の娘「りき」とその弟「熊之丞」の墓。

久保田賢二(ひばりが丘)

岡公民館の前は岡城の外濠である。10月13日、私たちは瀬志本さんと古平さんの案内の下、岡城を散策した。公民館の道を少し下ると岡城を説明する看板がある。その看板の脇を登って小高い土塁の上に登ると北側に先ほどの外濠が見える。そこには石碑があり、岡城の由来が刻まれていた。平安時代初期に桓武天皇の後裔平清氏が岡城を築城した。その後戦国時代に甲州兵学による縄張りがあり、内濠、外濠、三日月濠を持つ城となった。馬場美濃守信房は村上義清軍と対戦し、この城に武田軍が居城した。外濠は西へ向かって80mほど続いているが、城から北へ向かう道のところで途切れている。本丸跡に団地を造成したとき埋め立ててしまった。次に土塁を下って本丸へ向かうと井戸の跡があった。かつて城の中には「くぐり」の井戸があったとのこと。城の中に人が住むには水は貴重であったろう。そこから西に向かって歩くと内濠跡が見え、さらに西へ向かうと本丸にあるもう一つの井戸があった。さらに道に沿って南へ進むと、南側ががけになっている。昔はこのがけ下を浦野川が流れていて天然の要塞になっていた。そこか

フィールドワークを終えて ～子育て教育文化部長委員の想い～

ら外濠跡に沿って埋め立てられた道を歩いて岡城を一周した。

岡城の本丸から北へ伸びている道を北へ向かって50mほど歩くと、保福寺道に突き当たる。保福寺道を西に向かつて20mほど歩くと右手に宗安寺参道が見える。そこには三つの山門がある。一つ目が黒門、二つ目は駒返しの門、そして三つ目が長廣山門である。駒返しの門は鍵型の塀が二つ相對して設置されており人はその間を通る。たとえ殿様であってもこの門の前で馬を降りて歩き、宗安寺でお参りをしたとのこと。三つ目の長廣山門は不思議なことに屋根の棟が左右に伸びているのではなく、屋根の妻側が正面に見える。それゆえこの門は屋根が左右に広がって見え、門全体が雄大に見える。この門をくぐると正面に宗安寺が見える。宗安寺は初め岡三山の麓にあつたが、藤之木の地に移り、そも上田原合戦の時兵火のため焼けて、現在の地に再興された。宗旨は浄土宗である。この寺の特徴は黒門、駒返しの門、長廣山門を経て心身を清めて参拝する点である。

今回の岡城・宗安寺フィールドワークに参加したことで、この地域の歴史や文化に触れることができ、素晴らしい体験をした。岡城・宗安寺を案内していただいた瀬志本さんと古平さんに感謝申し上げます。

小山百合名(仁古田)

住まいである仁古田のお隣の岡地区。そこに広がるのは山と川の間を広がる美しい景色たち、今回のフィールドワークを通じてまた一つ川西地区の魅力を知ることが出来ました。

フィールドワーク当日、まずは岡城について教えていただき、実際に岡城址公園へ登りました。岡城の特徴的な三日月堀。今も一部残っている部分から当時の規模を知ることが出来ます。何箇所か井戸の跡もありました。岡城址公園は高台になっていて、その高台から見る岡地区の景色はとても綺麗でした。そして岡城址公園を後にし、岡地区を散策しながら次に宗安寺を訪ねます。宗安寺では特色のある3つの門や仏像などの見どころ、春には桜がきれいな事などを教えて頂きました。桜が咲く季節にも訪れたいなと思いました。今回歩いた道は平坦なところも多かったため、小さい子どもも歩けそうです。なので、今度はぜひ子ども達を連れて岡地区へ散策に出掛けたいと思います。美しい岡地区の景色を見ながら、今回教えて頂いた事を子ども達にも伝えたいな、そして子ども達にも故郷への想いを深めていつもらえたら嬉しいな、そんな風に感じた一日でした。

気持ちのいい秋晴れの中、岡地区にフィールドワークに行きました。

はじめに岡城跡を散策しました。岡城址公園に入り、上の方まで登りましたが、けっこうな傾斜でした。入りづらさがあつて、周囲にはお堀があつて攻められにくいのかなと思いましたが、ここはうちの子たちが保育園の時によく遊びに行っていた所で話にはよく出ていたので、初めて行くことができよかったです。

次に宗安寺です。門の屋根の向きが縦になっていた所が印象的でした。以前、法事でお世話になりましたが、改めてとてもキレイなお寺だなと思いました。

フィールドワークを通じて、普段はなかなか自分で勉強して歩いてみるなんてことはできなそうなので、こうしていろいろと教えていただけて大変貴重な経験となりました。

去年は浦野を散策し、今年は岡を散策して、ほんとに知っていることが少ないと実感しました。今後も文化や歴史に対して興味をもって生活していきたいと思っています。

平林 彩香(越戸)

10月13日、初めてのフィールドワークに参加させていただきました。

まずはじめに、岡の歴史について詳しくお話していただきながら、現在と昔の様子を照らし合わせながら歩

いて回りました。

当時は、たくさんの場所に井戸があつたことに驚きました。その近くには、子供たちの遊び場があつたと聞き、今では想像できませんが当時はとても賑やかだつたことにも驚きました。

その後に行つた宗安寺は、以前に娘と息子が稚児行列に参加したことがあつたので、訪れたことがありました。1754年に再建されたとは思えないほどとても綺麗なお寺で、屋根が大きく力強さを感じました。宗安寺では、春には綺麗な桜も見ることができようなので、また春になったら桜を見に訪れたいと思いました。

上田に住み15年ほど経ちますが、近くに住んでいながらまだまだ知らないことがたくさんあり、これを機にこの街の歴史など色々なことをもっと知りたいと思いました。

今回、たくさんのお話をお聞きすることができ、とても貴重な経験をさせていただきました。

間島 真依子(小泉)

岡地区の歴史をたどるフィールドワークに参加させていただきました。案内してくださつた瀨志本さんの軽やかに坂道を登る姿に元気をいただきました。子どもの頃にこの地で遊んだ思い出を話されてる時の笑顔が非常に心に残っています。

岡城跡縄張り図の説明では、内濠、外濠とその外側には三カ月濠が設け

られており、甲州兵学による縄張りのたいへん貴重な城であることを教えていただきました。岡城址の歌があることも知ることができました。宗安寺では古平さんに楽しく案内いただきました。庫裏の中には松平氏のお姫様の遺品が家宝として大切に保存されていると教えていただきました。とても美しく、四季折々の宗安寺へお参りに訪れたいなと思いました。岡地区は歴史を大切に守り、語り継がれ、これからも大切に残り、繋いでいきた



桜咲く岡城址

い地域であることを今回のフィールドワークを通して肌で感じる事ができました。出会えた皆様に感謝申し上げます。歴史をめぐる大切さを教えていただきとても良い経験ができました。

宮崎 一英(小泉)

今から四百七十年前に造られたらしい岡城。四百七十年前とはそれ程昔とは思えない。武田信玄がここにいたんだ。そもそも私が生まれて七十年、幼少期と今とは本当に変つた。時の流れ、時代の変化はすさまじい。四百七十年前の地で人々は岡城を守つたり、言い伝えを読んだり、文献を残したりして今日に至るのだらう。

案内をしていただいた瀨志本さんによると、城内の各地はりんご畑などになっており、本丸にいたつては平らにされ団地になってしまつていくところ。井戸は七つあつたが二つは残っているらしい。堀は一部道路になつたり、三ヶ月堀は三ヶ所のうち二ヶ所は跡が残っているぞう。堀跡は形状的には残っている所は見えてわかる。これからの保存の有り方がなやましい。

私は岡城址から二キロ離れた所に住んでいます。岡城と云う名前を聞いたのは

四十年程前。どこに有るのかも分からないまま特に気にもかけずに今に至つたのですが、こんな近くに戦国時代を感じさせる所が残っているのは貴重なことだと思います。

次に宗安寺に案内されました。三ヶ所の立派な門を通り抜けました。四百年前の建立との事。初めて来ました。それ程古い建物には見えませんでした。近所なのに知らない所がたくさんあります。私は時間に余裕がある年代になつたので、これからは色々歩こうと思います。

編集後記

岡の歴史探訪には、速い乗り物ではなく歩きが最適です。ぜひ川西紀行第5号を手にとつたりと岡地区を歩いてください。

発行にあたりお世話になりました皆様にも心より感謝いたします。(久松久美子)

【資料】

- 上田市誌
- 尾見智志氏作成 岡城址縄張り図 川西郷土研究会発行
- 「川西の石造物」
- 「川西の石造物 別冊」
- 川西地区碑文集
- 宗安寺由来書(長廣山門)
- 「岡の里山を守る会」リーフレット

ほか